

## 岡山県赤磐市における地域存続への挑戦

NPO 法人まちづくり夢百笑

植田 悦史

「10年後、私たちの地域は残っているのだろうか・・・」 事件や事故、自然災害や環境破壊。先人が積み上げてきたものが目の前で崩壊していく姿を見ていると、これまで意識の中に潜んでいた漠然とした不安のすべてが、いま現実となって表出したように感じます。

「このままでは地域の消滅は避けられない。」その思いが強まるとともに、この危機と相対する中で、私たち“まちづくり夢百笑”は「地域を未来へつなげること」を目的とした地域づくりをスタートしました。

日本の国土の約7割を占める中山間地域。人口減少が進む日本においてこれらの地域の衰退は全国共通の課題となっています。一方、地域が存続するための楽な処方箋はなく、シグナルに気づいていても気づかないふりをしながら、私達は今の生活のために仕事をするに必死になっています。ですが地方消失は本当にもう目の前にまで迫ってきています。

### まちづくり夢百笑の成り立ち

2013年、私たちはまちづくり夢百笑運営協議会として事業所をスタートしました。人口減少が進み、地域の活力が失われる中、最後まで踏ん張ってきた学区唯一の商店のJA直売所が閉店しました。路線バスの便数が減り、移動手段も乏しく、集落から出ることができない住民がいる地域に商店さえもなくなったら、ここで暮らしていくことが不可能になると考えた高齢者が中心になり、商店を維持、地域を守っていくことを決断。商業福祉拠点として出発することになりました。住民有志らで出資し、目標金額を大きく上回る400万円の出資金も集まりました。



プチリニューアルした店舗（下）。地域の願いやスタッフの志と結束力がなければここまで続けることはできなかった。

店舗兼食堂として開業し、弁当の宅配も行いました。開店の話は瞬く間に他地域へと広まり、小学校区で始まったサービスは中学校区、隣の小学校区へと広がっていきました。ですが採算は合いません。そもそも人口が少ないため。会長が朝から晩までへとへとになるまで配達し歩いても無報酬。給料を払えるようにはなりませんでした。

NPO 法人化したのは 2016 年。同時に移動販売を開始します。見守りも兼ねて行う移動販売は「将来の自分事」と認識されるようになり、区長や地区社協の協力を得たことでサポートスタッフが増えました。

しかし、当団体の一番の問題は担い手がないことでした。スタッフは平均年齢が 70 歳以上で週 6 日も営業している状況は、いつ終了してもおかしくない状況でした。

「必要とされていても続けられない。」  
私たちの地域もまちづくり夢百笑も確実に終わりに近づいていました。

### 地域消滅シグナル

運営協議会ができる 2 年前。地域は小学校の統廃合問題で揺れていました。少人数の小学校を維持することが財政的に厳しいことを頭では理解できていても、感情的に受け入れることはできません。だからといって「どうしたいのですか？」と問われても何も答えられませんでした。それまで何もしてこなかったのですから当然です。その時は 70%の住民が反対し、統廃合しないことになりましたが、いつこの問題が再燃するかという不安や地域がそこまでの窮状にあるという事実が、地域に危機感を芽生えさせるシグナルとなって、若い世代のその後の活動に大きな影響を及ぼしました。

それからは地域内では子育て世代同士の交流が積極的に行われるようになり、地域づくりに係る議論がはじまり、子育て支援団体の設立に繋がっていきました。

一方、若い世代は自分たちの枠組みから出る機会がありません。今の地域の仕組みでは他世代との交流が必要ないため、地域活動が他人事になってしまっていました。

### 地域コミュニティの現実と課題

高齢者と若い世代。地域の仕組みの中では他世代交流の機会が乏しく、年齢を基準としたコミュニティが形成されています。しかし、これでは高齢者が担い手を得ることはできませんし、若い世代は経験を受け継ぐことができません。裏を返すと、世代間の交流機会を増やすだけでも、それぞれの弱点を補い合えるということになります。さらに地域での交流機会が一番多い住民を“子育て世代の移住者”として考えてみると、新たなコミュニティの在り方にたどり着きます。

子育て世代の移住者は世帯主として転入してくるので、まずは自治会の一員になります。保育園や小学校、中学校に通う子供がいればそれぞれの PTA に加入し、消防団にも誘われます。それ以外にも子ども会や青年会、ボランティア団体など多数の地域内外の活動に誘われます。これらの活動を通じて移住者は他世代との交流が自然と多くなります。

地元の住民であれば、年長者が自治会に参加し、子育て世代の奥さんは PTA、ご主人は消防団といったように、家族での役割分担がしっかりできています。反面、自分の担当以外が他人事になりやすい条件が整っており、世代間交流が起きにくい原因にもなっています。

地域コミュニティは不必要とって壊していいものではありません。ですが、若者の流出が止まらない状況で、世代間の交流が途絶えてしまうと、担い手が出てこないまま地域の仕組みは崩壊を迎えることになりかねません。

## 仁堀地区の概況

まちづくり夢百笑がある岡山県赤磐市仁堀地区には7つの自治会（集落）があり、一つの行政村を形成していました。かつて2,500人が生活する村でしたが、1945年をピークにその後は人口が減り続け、吉井町編入（1956）、赤磐市（2005）と町制、市制へと移り変わっても、その流れを断ち切ることはできませんでした。現在の人口は約900人で、2040年には400人程度になると予想されています。

表 仁堀地区の人口動態

年月	人口	世帯数
H17.4	1,291	449
H21.4	1,274 (▲17)	454 (+5)
H26.4	1,059 (▲215)	435 (▲19)
H31.4	899 (▲160)	410 (▲25)
R1.9	885 (▲14)	411 (+1)

直近5年は年間30人以上減。加速度的に人口減少が進んでおり底も見えない。

この環境を住民の努力だけで解決することは不可能です。かといって役場も人員整理が進み、役場職員の業務負担は年々増大しており、地域、行政双方が自力で人口減少時代に対応できなくなっています。

表 人口と赤磐市職員数の関係

年	人口	職員数	人口÷職員
S50	7,304	92	79
H11	5,852	106	55
H17	45,360	427	106
H27	44,827	465	96
H30	44,461	440	101

赤磐市提供。まちづくり夢百笑は市と協働して人口減少時代に真剣に適応しようとしている。

## 地域から興すプラットフォーム

地域と行政の関係が間延びしているのであれば、それを繋ぐ必要があります。そのような中継をする組織は地域の中にあることが望ましく、当地域では私たちが担っています。若者と高齢者や地域と地域、様々なグループやネットワークが当団体を通じてつながっており、その役目に対する他地域からのニーズも高まりつつあります。

一方、当団体の高齢者スタッフにこれ以上の労働を課すことはできません。逆に負担を軽減し、長く楽しく続けてもらえる仕事環境にすることが課題です。

高齢化した地域では地域の生産性が悪いにもかかわらず問題が山積みになっており、課題解決へのニーズが高いことが特長です。必要であれば取り組まなければなりません。必要であれば取り組まなければなりません。そこで、私たちは必要な事業には協同労働を取り入れたいと考えています。小さな仕事を小さなグループが担当し、そのためのプラットフォームを当団体が提供する仕組みを構築することで、地域のニーズを満たすことができないかを模索しています。

### 【地域づくりで大切な“3つ”のポイント】

地域づくりを進める中で気づいたポイント3つを紹介させていただきます。

はじめが「起し」。地域を目覚めさせます。次は「興し」。地域のために駆け回ります。最後が「作る」。地域の仕組みや枠組みを完成させていきます。地域づくりは私たちの日常生活と同じで、すっきり目覚めて仕事に励めば、良い成果が得られるようになります。



地域づくり、3つのステップ

## にぼり村型地域づくりがスタート！

2019 年は本格的な地域づくりがスタートしました。当団体には若い世代も加わり、持続可能な組織と地域を目指し、高齢者と若者協同で地域づくりに取り組んでいます。

また、岡山県備前県民局との協働事業もはじまりました。自ら提案し、実践するこの事業は今の私たちの姿勢とマッチしており、「存続できる地域」を目的として、地域住民と行政、大学、NPO、民間企業等との協働事業へと発展してきています。

特に、岡山県備前県民局が、私たちが前に進もうとすることを全力でバックアップしてくれており、チャレンジへの支援は本当に心強いものです。そしてワーカーズコープは、難しいニーズに対しても適切に応えられるだけの情報量と経験値、地域づくりを最後まで続けていくことを可能にする仕組みを持ち合わせており、本当に必要な知恵や知識を提供してくれています。

私たちが考える新しいコミュニティ。それは地域づくりを志す全ての人たちが結びつき、協同で目的を達成する集まりで、地域内外の輪が広がって、みんなで社会を作っていく。いま協同で実現している形が私たちの理想のコミュニティといえます。



勉強会に参加してくれた地域の人たち。世代を超えて真剣に地域の未来を語り合っている。

「お金がない」、「人がいない」と“ない”ことを自慢するのを止めた結果、今の私たちは未来に向けて歩みはじめることができました。否定で時間を無駄にするよりも、「まずはやってみようや」の精神でどんどん行動することこそが一番大事だと思えたからです。無我夢中に走り続けると、地域を未来へつなぐための種がたくさんあることにも気が付きました。そして本当にたくさんの仲間がいます。それは私たちに「地域には必ず未来がある」ことを確信させるには十分すぎるくらいでした。まだ始まったばかりで、私たちの地域が本当に存続できているという保証はどこにもありません。ですが、足踏みしているぐらいなら、何も考えずに前に進みます。答えがないなら、私たちが創ればいい。それぐらいの気持ちで地域を存続させるために挑戦しています。

ぜひ岡山県赤磐市へ、まちづくり夢百笑へお越しください。そしてみんなで一緒に地域や社会をつくっていきましょう。

補助事業の年間事業計画

講座 14回

(うち実施済みは5回)

アンケート調査 4種類

(対象 住民、保、小、中)



岡山県備前県民局との協働事業を通じて分かった3つの課題とそれぞれの目標

〔仕事〕	〔交通〕	〔子育て〕
地域経済力を上げ、持続可能な社会を生み出すための仕事づくり	「一人にさせない」ために、有償福祉輸送や通所付添サポート事業等の導入を検討	「子育ては田舎で」を合言葉とした子育て環境の整備と充実